

全国学力・学習状況調査を踏まえて

令和6年4月に実施した「全国学力・学習状況調査」は、小学校は国語と算数の2教科、中学校は国語と数学の2教科で実施しました。地域の皆さまに与謝野町・組合の子どもたちの現状を理解していただき、学校・家庭・地域が一体となって、子どもたちの健全な育成を図ってまいります。

図 学校教育課 ☎ 43・9025

学力調査結果より

調査結果では、小学校は国語と算数とも全国平均正答率を下回る結果となりました。中学校においても、国語と数学とも全国平均正答率を下回る結果となりました。与謝野町・組合の学力状況としては改善を図る必要があります。

主な教科の課題としては、国語は正しく「読むこと」「書くこと」など、各教科の基礎となる力を身に付けることが挙げられます。算数・数学では、問題の意味を読み取ってイメージしたり、数学的に解釈して説明したりする力を身に

(表1) 令和6年度全国学力・学習状況調査結果(正答率)

小学校(6年生)	国語	算数
全国	67.7%	63.4%
与謝野町	60.0%	62.0%
中学校(3年生)	国語	数学
全国	58.1%	52.5%
与謝野町・組合	55.0%	48.0%

※ 与謝野町・組合・・・加悦中学校、江陽中学校、与謝野町宮津市中学校組合立橋立中学校の3校

付けることが挙げられます。また、あきらめないで粘り強く取り組むことや筋道を立てて考えることも課題と考えられます。

主体的に学ぶ力をはぐくむために

1 生きる力をはぐくむ学級づくり

学習指導要領では生きる力をはぐくむために、3つの資質・能力を育てていくこととしています。

- 実際の社会生活で生きて働く知識・技能
- 未知の状況に対応できる思考力・判断力・表現力
- 学んだことを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力や人間性

教科調査で見られた課題を改善するためにも、これらの力を付ける必要があります。

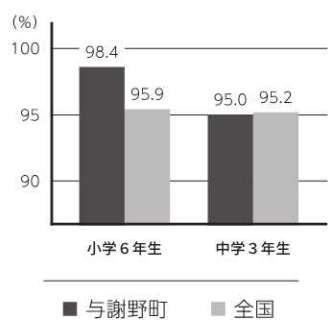
そのため、各校では学力調査結果などの分析を踏まえ自校の課題や改善点を明らかにし、授業研究や研修会などを通して、一人ひとりの課題などに応じた学習指導が

4 保育所・こども園・小中学校で連続した学びの充実

幼児期にはぐくまれる生活習慣や好奇心、社会性などの非認知能力は、学童期以降の学ぶ力の土台となります。保育所・こども園・小中学校教員の合同研修会などを行い、学びの芽をはぐくむ幼児教育との連携を大事に進めています。また、子どもたちの様子や保育・教育の指導方法などを互いに交流し、子どもの学びの連続性を重視した授業になるよう、中学校区での保育所・こども園・小中連携を進めています。

子どもたちが将来、社会の中で自立し、夢をもって自分らしく幸せに生きていくために、今後も取り組みを推進していきます。

(表3) 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。



の有用性を実感しながら、友だちの考えを自分の学びに生かそうとしていることが伺えます。

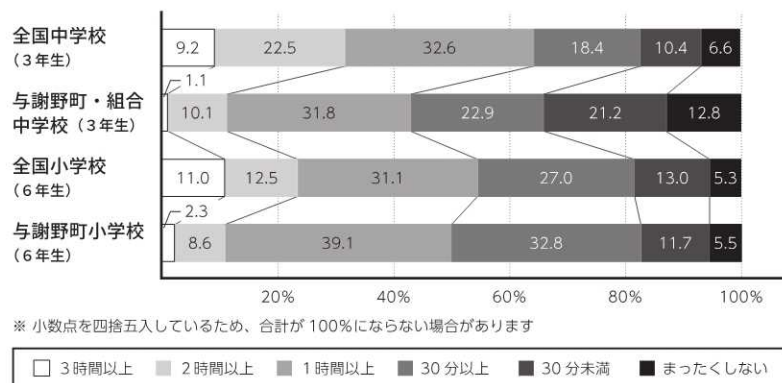
また、「動画や音声などを活用することで、学習内容がよく分かるようになった」「自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる」と答えている児童・生徒も多く見られます。タブレットを使うことが特別なことではなく、学びを進めるための一つの「道具」として、児童・生徒自身が活用場面や方法を選択しながら学ぶ姿も増えてきました。各学校が地域の特色を生かしながら、「どんな子どもたちを育てていきたいか」ということを大切にして、これまでの授業の在り方を変えていくために、指導方法やICT活用の工夫に取り組んでいる成果の表れと捉えています。

今後、さらに課題解決に向けた授業改善を具体的に進め、児童・生徒が主体的な学び手として育っていくことをめざしていきます。

3 自分に合った学習方法や基本的生活習慣の確立を

家庭学習の時間は、30分未満が

(表2) 小・中学校の家庭学習状況



タブレットを使って学習する生徒たち ▶